

【表紙】

【提出書類】 有価証券届出書の訂正届出書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月20日

【発行者名】 S M B C日興インベストメント・ファンド・マネジメント・
カンパニー・エス・エイ
(SMBC Nikko Investment Fund Management Company S.A.)

【代表者の役職氏名】 取締役 辰野 温

【本店の所在の場所】 ルクセンブルグ大公国 ルクセンブルグ L-1282 ヒルデガルト・フォン・ビンゲン通り2番
(2, rue Hildegard von Bingen, L-1282 Luxembourg, Grand Duchy of Luxembourg)

【代理人の氏名又は名称】 弁護士 三 浦 健
同 廣 本 文 晴

【代理人の住所又は所在地】 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【事務連絡者氏名】 弁護士 三 浦 健
同 廣 本 文 晴
同 尾 登 亮 介
同 大 田 友羽佳

【連絡場所】 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング
森・濱田松本法律事務所

【電話番号】 03(6212)8316

【届出の対象とした募集（売
出）外国投資信託受益証券に
係るファンドの名称】 日興ワールド・トラスト・グローバル・トレーディング・オポチュニ
ティ・ファンド
(Nikko World Trust - Global Trading Opportunity Fund)

【届出の対象とした募集（売
出）外国投資信託受益証券の
金額】 () 当初申込期間（2020年11月30日から2020年12月15日まで）
米ドル建クラス受益証券
10億米ドル（約1,058億円）を上限とする。
円建（ヘッジなし）クラス受益証券
1,000億円を上限とする。
() 継続申込期間（2020年12月16日から2022年1月31日まで）
米ドル建クラス受益証券
50億米ドル（約5,290億円）を上限とする。
円建（ヘッジなし）クラス受益証券
5,000億円を上限とする。
(注) 米ドルの円換算は、便宜上、2020年9月30日における株式会社三菱UFJ銀
行の対顧客電信売買相場の仲値（1米ドル＝105.80円）による。

【縦覧に供する場所】 該当事項なし。

1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

2020年11月13日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」という。）に、誤記により訂正すべき事項がありますのでこれを訂正するため、本訂正届出書を提出するものであります。

2【訂正の内容】

下線部は訂正の内容を示します。

第二部 ファンド情報

第1 ファンドの状況

2 投資方針

（1）投資方針

< 訂正前 >

（前略）

■ファンドの特色

1 CTA戦略やマクロ戦略等を採用する複数のヘッジファンドに投資を行い、ファンドの価格の変動性を抑えつつ投資機会を捉えることで、信託財産の中長期的な成長を目指します。

●ファンドでは、主に以下のヘッジファンド戦略に投資を行います。

- ①CTA戦略とは、CTA(Commodity Trading Advisor=商品取引顧問業者)がコンピューター・プログラム等を用いて世界各国の取引所に上場されている先物取引等を行う戦略です。
- ②マクロ戦略とは、世界各国の各市場の方向性を予想して収益の獲得を目指す戦略であり、世界各国の取引所に上場されている多種多様な現物証券、先物取引、為替取引などを活用します。
- ③ボラティリティ・アービトラージ戦略とは、オプションの価値とボラティリティの関係に着目し、デリバティブ等を活用して収益の獲得を目指す戦略です。
- ④テールヘッジ戦略とは、テールイベント(稀にしか発生しないものの、発生すると大きな影響のある事象)発生時の価格変動等に着目し、デリバティブ等を活用して収益獲得を目指す戦略です。

●投資先ファンドでは各運用会社が独自の投資戦略により、世界各国の取引所に上場されている先物取引等の幅広い資産に投資し、買い建て、売り建ての両方のポジションを活用して機動的なポートフォリオの構築を行います。

2 ヘッジファンドへの投資に精通したエドモン・ドゥ・ロスチャイルド(スイス)エス・エイが、複数の投資戦略・優良なマネージャーを選定しポートフォリオを構築します。

●投資先ファンドとその数および配分は、投資運用会社により決定され、投資環境や運用実績等に応じて見直されます。

3 「米ドル建クラス」と「円建(ヘッジなし)クラス」からお選びいただけます。

●「円建(ヘッジなし)クラス」のクラスは、為替ヘッジを行わないため、為替変動による影響を受けます。円高時には為替差損が、円安時には為替差益が生じる可能性があります。

（後略）

<訂正後>

（前略）

■ファンドの特色

- 1 CTA戦略やマクロ戦略等を採用する複数のヘッジファンドに投資を行い、ファンドの価格の変動性を抑えつつ投資機会を捉えることで、信託財産の中長期的な成長を目指します。
 - ファンドでは、主に以下のヘッジファンド戦略に投資を行います。
 - ①CTA戦略とは、CTA(Commodity Trading Advisor=商品投資顧問業者)がコンピューター・プログラム等を用いて世界各国の取引所に上場されている先物取引等を行う戦略です。
 - ②マクロ戦略とは、世界各国の各市場の方向性を予想して収益の獲得を目指す戦略であり、世界各国の取引所に上場されている多種多様な現物証券、先物取引、為替取引などを活用します。
 - ③ボラティリティーアービトラージ戦略とは、オプションの価値とボラティリティーの関係に着目し、デリバティブ等を活用して収益の獲得を目指す戦略です。
 - ④テールヘッジ戦略とは、テールイベント(稀にしか発生しないものの、発生すると大きな影響のある事象)発生時の価格変動等に着目し、デリバティブ等を活用して収益獲得を目指す戦略です。
 - 投資先ファンドでは各運用会社が独自の投資戦略により、世界各国の取引所に上場されている先物取引等の幅広い資産に投資し、買い建て、売り建ての両方のポジションを活用して機動的なポートフォリオの構築を行います。
- 2 ヘッジファンドへの投資に精通したエドモン・ドゥ・ロスチャイルド(スイス)エス・エイが、複数の投資戦略・優良なマネージャーを選定しポートフォリオを構築します。
 - 投資先ファンドとその数および配分は、投資運用会社により決定され、投資環境や運用実績等に応じて見直されます。
- 3 「米ドル建クラス」と「円建(ヘッジなし)クラス」からお選びいただけます。
 - 「円建(ヘッジなし)クラス」のクラスは、為替ヘッジを行わないため、為替変動による影響を受けます。円高時には為替差損が、円安時には為替差益が生じる可能性があります。

（後略）

(3) 運用体制

< 訂正前 >

投資運用会社の運用体制は以下の通りである。

■運用体制

投資運用会社の運用体制は以下の通りです。

運用プロセス

- ヘッジファンドでは、類似の戦略を採用していても内容は千差万別であり、相場環境により全く異なるリターンとなる場合もあります。そのため、ポートフォリオのリターンを安定的にするには複数のヘッジファンドへの分散だけでなく、運用責任者の手腕やチームの分析力、適切なリスク管理など様々な項目を考慮したファンド選定が重要です。

セレクトィング・プロセス

予備スクリーニング

- ▶ 経験豊富なアナリスト・チームが、約1万*のヘッジファンドのユニバースをスクリーニング。

*世界の4,500の運用会社によって運用されており、運用資産残高は約3兆米ドル。

適合性評価

投資可能なユニバースはランク付けされ、
経験豊富なアナリストが潜在的な候補を検討
+定量分析
(約300のヘッジファンズ)

- ▶ リサーチは、データベースや、他のマネージャーからの紹介など、幅広い情報から新しい投資 アイデアを得て、投資運用会社の内部で実行。
- ▶ 投資チームは、予想される市場状況に照らして、アイデア／マネージャーの適合性を検討。
- ▶ 独自のツールを使用して、最初の定量フィルタを適用。

マネージャーへのインタビュー

レファレンス・チェック

+定量分析
(約150のヘッジファンズ)

- ▶ チームは年間約250回のマネージャーミーティング(オンサイト訪問を含む)と200回以上の電話会議
- ▶ 法律文書・行政文書のレビュー
- ▶ セレクション委員会のメンバーは、広範なコンタクトを利用して、マネージャーについてさらに情報収集。

セレクション・コミッティ

- ▶ セレクション委員会のメンバーは、予想される現在の市場状況に照らしてマネージャーの適性を評価。

※上記の運用プロセスは2020年6月末時点のものであり、将来変更される場合があります。
(出所) エドモン・ドゥ・ロスチャイルド・グループ

<訂正後>

投資運用会社の運用体制は以下の通りである。

■運用体制

投資運用会社の運用体制は以下の通りです。

運用プロセス

- ヘッジファンドでは、類似の戦略を採用していても内容は千差万別であり、相場環境により全く異なるリターンとなる場合もあります。そのため、ポートフォリオのリターンを安定的にするには複数のヘッジファンドへの分散だけでなく、運用責任者の手腕やチームの分析力、適切なリスク管理など様々な項目を考慮したファンド選定が重要です。

セレクトィング・プロセス

予備スクリーニング

- ▶ 経験豊富なアナリスト・チームが、約1万*のヘッジファンドのユニバースをスクリーニング。
*世界の4,500の運用会社によって運用されており、運用資産残高は約3兆米ドル。

適合性評価

投資可能なユニバースはランク付けされ、
経験豊富なアナリストが潜在的な候補を検討

+定量分析

(約300のヘッジファンズ)

- ▶ リサーチは、データベースや、他のマネージャーからの紹介など、幅広い情報から新しい投資アイデアを得て、投資運用会社の内部で実行。
- ▶ 投資チームは、予想される市場状況に照らして、アイデア／マネージャーの適合性を検討。
- ▶ 独自のツールを使用して、最初の定量フィルタを適用。

マネージャーへのインタビュー

レファレンス・チェック

+定性分析

(約150のヘッジファンズ)

- ▶ チームは年間約250回のマネージャーミーティング(オンサイト訪問を含む)と200回以上の電話会議
- ▶ 法律文書・行政文書のレビュー
- ▶ セレクション・コミティのメンバーは、広範なコンタクトを利用して、マネージャーについてさらに情報収集。

セレクション・コミティ

- ▶ セレクション・コミティのメンバーは、予想される現在の市場状況に照らしてマネージャーの適性を評価。

※上記の運用プロセスは2020年6月時点のものであり、将来変更される場合があります。

(出所) エドモン・ドゥ・ロスチャイルド(スイス)エス・エイ